

(仮称)「道路空間高度化論」について

平成18年4月

## 1. 高度化論検討の目的

現在、我が国は人口減少、少子高齢社会の到来をはじめ国際化の進展、情報通信技術の高度化、環境・エネルギー問題の深刻化など、大きな変革期を迎えており、また、国民の価値観やライフスタイルも心の豊かさがより求められるようになるなど変化あるいは多様化してきている。

一方、道路については投資効果等を十分に踏まえながら、新たな道路整備に取り組んでいく必要があるとともに、ストックとしての既存道路の有効活用も重要な課題となっている。

こうした状況のなかで、最も基本的かつ根幹的な公共施設である道路においては、国民のニーズに的確に対応すべく、道路の有する様々な機能やその空間の活用方法をより一層高度化していくことが求められており、道路のつくり方、使い方や道路とその周辺の空間の連携のあり方等について幅広く検討を行い「道路空間高度化論」として取りまとめることを目的としている。

## 2. 検討の経緯及び今後の予定

平成15年度より（財）道路空間高度化機構の自主研究として検討を進めてきており、平成15年12月からは道路空間の高度化に広く知見を有する学識経験者による委員会を設置し検討を深めてきている。

また、道路空間高度化に関わる様々な分野の有識者をゲストスピーカーにとして委員会に迎え、意見交換を行っている。

今後も引き続き検討を行い、平成18年秋には、取りまとめた研究成果を「(仮称)道路空間高度化論」として出版することとしている。

### (委員会の構成)

期 間：平成15年12月～平成18年度夏頃までを予定する。月1回程度の開催頻度とする。

構 成：委員長 石田 東生（筑波大学 社会工学系 教授）  
委 員 天野 光一（日本大学 社会交通工学科 教授）  
委 員 岸井 隆幸（日本大学 土木工学科 教授）  
委 員 谷口 守（岡山大学 環境デザイン工学科 教授）  
委 員 久保田 荘一（財団法人道路空間高度化機構 専務理事）

開催状況：委員会開催 23回（平成15年12月～平成18年2月）  
ゲストスピーカー 12人

ゲストスピーカーと講演テーマ (敬称略)

分野	氏名	所属	講演テーマ
歴史・道路 高速道路網	武部 健一	道路文化研究所 理事長	道とは何か ー道路空間高度化論のためにー
哲学・空間論	桑子 敏雄	東京工業大学 教授	道路空間への視点
建築	青木 仁	都市基盤整備公団	街づくりと道路整備
シーニック バイウェイ	和泉 晶裕	国土交通省 北海道開発局	シーニックバイウェイ北海道について
建築	北山 孝二郎	(株)K計画事務所	街のゆとりの再生
環境	鷲谷いづみ	東京大学 教授	生物多様性の保全と外来種問題
交通社会心理	藤井 聡	東京工業大学 助教授	モビリティ・マネジメント ～既存インフラの『有効利用』を目指して～
トイレ	小林 純子	設計事務所 ゴンドラ 代表	道路のレベルアップとトイレ整備
ICカード 鉄道	横江 友則	(株)スルッと KANSAI 専務	スルッとKANSAI ICカード PiTaPa の取組みと今後の展開
造園・景観	前田 博	京都造形芸術大学 教授	『道路空間の文化化』 ～まちづくりと一体化したみちづくりを！～
ITS	長谷川 金二	国交省道路局 ITS 室長	「ITS、セカンドステージ」へ フォローアップ
交通安全	岡 邦彦	国交省国土技術政 策総合研究所 室長	交通安全対策を取り巻く状況について

### 3. 検討内容

#### (1) 高度化論の基本的考え方（案）

これからの道路のあり方を検討していく上での基本的な考え方として、以下の3つがあげられる。

##### ①標準自動車主義から多様性主義へ

これまで（特に戦後）の道路整備においては、増大する自動車交通への対応に迫られた形での自動車中心の整備となっており、歩行者などが後回しにされてきたと言え、また、道路の幅員構成も全国的に一律の自動車を中心としたものが標準とされてきた。

これからは、自動車、歩行者、自転車、地域の生活者、来訪者など道路を利用、活用する多様な主体を前提に考えること、全国一律ではなく各地域の多様性を尊重していくことなどが重要である。

##### ②道路から道路空間へ

これまでは交通機能が主に考えられてきたのに加え、空間としても道路（道路区域）に限定した捉え方での議論が多くなされてきた。

道路は供給処理施設の収容空間や通風・採光さらには防災のための空間として活用されてきたが、今後は都市あるいは地域における貴重な空間を良好な環境や景観の形成などに向け、一層積極的に活用していくことが重要である、

また、沿道や道路の上下部を始め道路の周辺空間を広く含めたなかで道路を捉え、快適性、利便性の向上あるいは地域の活性化等様々な課題に対応しながら、道路空間の在り方を検討していくことが重要となっている。

##### ③公物から共物へ

これまで道路は、行政官庁が整備し管理する「公物」として認識されてきた。

今後は、基本的な整備、管理責任は行政にあるとしても、地域の住民や企業など様々な主体の共有物即ち「共物」として捉え、親しまれ、生活を始めとする諸活動に役立つ皆の道路として、計画、整備、維持管理、使用に多くの主体が責任も持ちながら参画していくことが重要である。

## (2) 高度化の6つの視点 (案)

### ① 生活の場としてのみちづくり

「道路空間を、生活の場や舞台として捉えて守り育てる視点」

- ・地域コミュニティを育む道路空間をつくる
- ・魅力あふれる商業ストリートをつくる
- ・道路空間で交流を生み出す

### ② ゆったりと歩けるみちづくり

「歩行者や自転車が、ゆったりと楽しみながら歩いたり通行したりすることができる、ひとが主役のみちづくりの視点」

- ・歩行者が主役の道路空間をつくる
- ・自転車にとって快適な道路空間をつくる
- ・ユニバーサルデザインで道路空間をつくる

### ③ 都市空間に溶け込んだみちづくり

「道路空間と沿道とが互いに溶け合い、また立体的に活用されて、有機的・重層的に結びついている空間づくりの視点」

- ・道路空間と沿道空間を融合させる
- ・道路空間を立体的に活用する
- ・交通結節点の機能を高める

### ④ 地域ならではのみちづくり

「多様な主体が協力することにより、道路空間のつくり方や使い方をもっと良くしていこうとする視点」

- ・景観に配慮した道路空間をつくる
- ・歴史を伝える道路空間をつくる
- ・愛着の持てる個性的な道路空間をつくる

### ⑤ 協働によるみちづくり

「多様な主体が協力することにより、道路空間のつくり方や使い方をもっと良くしていこうとする視点」

- ・道路空間を協働でつくる
- ・限られた道路空間をシェアする
- ・道路空間を学びの場として活用する

### ⑥ とともに成長するみちづくり

「人や地域が道路を育てる、また道路が人や地域を育てるといった、道路・人・地域が共に成長していくという視点」

- ・時とともに成長する道路空間をつくる
- ・多様な観点から道路空間を活用する
- ・地域再生のための道路空間をつくる

自動車のための道路：極端な自動車社会







